

殖、栄養、生育と外圍要因、分布の6章に分れている点では同様であるが、その内容は近年植物生理学、同生態学等の研究結果を加え、例えばその1章栄養の条下の記述の如きは旧版の9頁に対し本書に於いては約47頁がこれに費されており、如何に實際海藻の養殖等に根本的な必要条件の説明に努力が払われているかがわかるであろう。次に本書の基礎篇の分類の項に於いては旧版の、今日から見れば所謂“古い”分類を其の後植物学全般に亘る進歩によって改訂された諸分類式を参照し、旧版のものとは全く面目を一新した分類式によっている。最後に本書の最も特徴とする所は応用篇の各論の部で約260頁に亘って1) 肥料及び飼料 2) 糊料 3) アルギン酸及びその原藻 4) 寒天 5) 食用藻類 6) 駆虫剤 其の他の6部門に分け夫々の部門に属する藻類例えばアマモ、スガモ類、フノリ、タンバノリ、ツノマタ類、アラメ、カヂメ類、テングサ類、オゴノリ類、コンブ類、アマノリ類、アオノリ類、海人草等々について各々その生植物の性質即ち形態、生活史等から分布、種類、採取、製造用途更に生産統計、増殖法等に至る迄その要を尽している。例えばノリに就ては先ずその名称から初め形態と色彩、体の構造、性状、生殖及び生活史、アマノリの種類に就いては種の検索表から夫々の種の詳しい記載異同等を述べている。更に進んで乾海苔の生産、養殖の概要即ち養殖の沿革からその方法、時期、人工採苗、移植及び管理、又製造、保蔵、加工の条下では乾燥、佃いと火入れ、焼海苔、味付海苔の製法等にまで及び更に乾海苔の栄養価、含有のビタミンの質、量に迄及び誠に間然する所がない。最後に近年有名になったクロレラについてその培養工程、化学成分と用途等について詳しい記述がある。

以上本書の内容等に就いてその一端を述べたが要するに本書は水産植物に関する今日の吾々の知識を結集した最も優れた著述と称すべきもので、本書の利用によって裨益されるものは単に水産界又は藻類に関係を有する人達に止まるものではないであろう。

(山田 幸男)

学 会 録 事

会 員 移 動

(昭和39年4月1日より昭和39年8月15日まで)

新 入 会 (10名)

昭和39年8月15日 現在會員教 416名
住所変更 (20名)

退 会 (3名)

波井 正, 辺見照夫, 三浦 昭